

2025年度「漢方医学教育研究助成」採択者一覧

一般研究助成：5件/13件			
No.	研究題目	施設名・所属（役職）	申請者（代表）
	研究要旨		
1	“カンポークエスト”：漢方医学教育のためのシナリオ型ゲーミフィケーション教材の開発と実装評価	京都大学医学研究科 医学教育・国際化推進センター 講師	生野 真嗣
	漢方医学への関心を高め学習の入口として活用可能なゲーミフィケーション教材「カンポークエスト」を開発・評価する。具体的には漢方医学の基本理念を組み込んだシナリオ型RPGを作成し、楽しみながら漢方医学の思考様式を経験できるようにするとともに、その後の専門家による指導をより効果的なものとする。研究ではベースラインを揃えやすい卒前医学部学生を対象とし、学習意欲と理解度の変化を定量的に評価する。教材はWebブラウザゲームとして展開可能なため卒前卒後のシームレスな展開のみならず他大学・他職種への展開も容易であり、学習者間の交流が促進できる。このように本研究は漢方医学教育の普及と導入促進に資するものと考える。		
2	漢方業務支援ソフトウェアを用いた随証治療教育の構築	東京女子医科大学附属東洋医学研究所 准教授	河尻 澄宏
	漢方への関心は年々高まっているが、「証」を診断して漢方薬を選択する随証治療は習得するまで多くの時間を要し、指導者不足の背景もあり十分な教育を受けられない学生および医師が多いのが現状である。本研究では近年開発された漢方業務支援ソフトウェアを用いて、ソフトウェアが導く複数の候補漢方薬や証のスコアおよび実際の治療効果について学修者（東洋医学を選択実習で選んだ本年6年生および漢方専門医を目指す専攻生）と指導者（漢方指導医および漢方専門医）が議論することで、漢方医学的病態評価に基づいた漢方薬選択までの思考プロセスを学修してもらい、随証治療を効率よく学ぶ学修方法を構築していく。		
3	漢方外来診療の再現動画による漢方医学教育ツールの開発	自治医科大学医学教育センター 研究生 飯塚病院東洋医学センター漢方診療科 診療部長	吉永 亮
	漢方指導医の外来診療への陪席は有効な学習方法の一つである。しかし卒後教育では、指導医の不足などから漢方外来を見学する機会は限られている。今回、漢方医による診療を誌面上で再現した研究代表者の著書「あつまれ!!飯塚漢方カンファレンス」などの内容を、共同研究者の著書「動画・音声付臨床問題教材作成ガイド」を参照し、診療シーンを動画化した教材（10症例）を作成する。動画には漢方医学的解釈などに関する設問と解説を挿入し、学習者が設問に解答しながら、陰陽、虚实、気血水の異常の順に考える漢方診療のプロセスを疑似体験できるようにする。また本教材の教育効果を初期研修医を用いてランダム化比較試験を実施し、検証する。		
4	総合診療専攻医を対象とした持続可能な漢方医学ブレンド学習の実装研究	東北医科薬科大学医学部 老年・地域医療学教室 講師	石木 愛子
	本研究は、総合診療医が漢方医学を臨床現場に実装し、患者中心の医療の質を向上させることを目的とした卒後教育プログラムの構築を目指す。総合診療専攻医に対してe-learningによる柔軟な自己学習と、漢方専門医による対面での実践指導を組み合わせたブレンド学習を採用し、地域医療で活躍する若手総合診療医の漢方医学診療能力の体系的強化と即戦力化を図る。さらに、教育を受けた専攻医が講師として次世代を指導する屋根瓦式教育体制を導入し、漢方医学の普及と地域医療への持続的な貢献を実現する。		
5	医学生から“伝えることで学ぶ”漢方医学教育プログラムの検討	岡山大学学術研究院医歯薬学域 赤磐(あかいは)総合診療医学講座 講師	大村 大輔
	本研究は、医学生が地域住民に対して漢方医学の視点をを用いた健康テーマ（冷え、気虚、月経、睡眠など）を伝えるアウトリーチ型教育プログラムを開発・実施し、その教育的効果を評価することを目的とする。申請者らが顧問・副顧問を務める医学生団体に所属する学生を対象に、伝統医学の基本概念を理解し、自らの言葉で人に伝える過程を通じて漢方的思考を深める学習モデルを構築する。医学生の理解度や住民の反応を多面的に評価し、再現性のある教材として全国展開可能な実践的漢方教育の構築を目指す。		

グループ研究助成：1件/9件			
No.	研究題目	施設名・所属（役職）	申請者（代表）
	研究要旨		
1	多様な学修者に対応する漢方医学教育支援AIチューターと拡張型授業モデルの共同開発研究	富山大学 学術研究部医学系和漢診療学講座 教授	貝沼 茂三郎
	本研究では、漢方医学教育における学修者の多様性に対応するため、入力に応じて対話的に支援を行うAIチューターを開発し、連動する授業モデルおよび症例教材の改良と拡張を行う。AIチューターは漢方医学の基本概念の理解を支援するとともに、学習ログを活用して教育内容の継続的な改善が可能となるよう設計する。また、その活用を前提とし相乗的な教育効果をもたらす新たな教育モデルの確立を目指す。スタンドアロン型アプリと拡張可能な症例データの組み合わせにより汎用性の高い設計とし、富山大学と京都大学の連携によって多様な教育現場への展開を可能とする。以上より、この研究は漢方医学教育の普及と導入促進に資するものと考える。		